

ニ ュ ー ス 済 生

THE NEWS SAISEI



発行所 社会福祉法人済生会
東京都港区三田1-4-28 三田国際ビルディング21F 〒108-0073
電話 03-3454-3311
FAX 03-3454-5576
編集兼発行人 炭谷 茂

https://www.saiseikai.or.jp/

高松宮記念基金にご協力ください

令和3年1月～9月分実績

◎本会会員加入状況	40,192人	83.9%
	46,070口	9,214万円
◎外部会員加入状況		
◎一時寄付状況	26件	49万円
	(内、自販機関係)	30万円
◎募金箱		23万円

支部復活へ議論加速

あり方「福祉施設群設置を」検討会

第2回支部未設置県解消等済生会の基本的あり方に関する検討会(委員長・園田孝志唐津病院院長)が9月28日、本部で開かれた。

第1回の意見を踏まえ、



保健・医療・福祉総合研究が評価していくことを確認。そのうえで支部未設置県に支部を設立(復活)する議論を交わした。事務局からは①支部設置を検討する理由②地域における支部設置への期待③行政との関係④他団体との連携⑤実施する事業内容⑥資金調達(の六つの論点が提示され、全委員が意見を述べた。主な意見は次の通り。

①支部設置(復活)を検討する理由

「本会理念や使命自体が未設置県に支部を設置する理由となる」「未設置県に支部を設置すれば新興感染症流行時や災害時の拠点となる」ことが出来る

②地域における支部設置への期待

「戦略的広報を実施することが必要であり、行政やNPO団体等に済生会の機関誌・紙を配布することから始めてはどうか」「支部未設置県でシンポジウムを開催すれば期待感向上に役立つのではないか」

③行政との関係

「地域医療構想で病床を削減しようとしている中で、行政との関係はより重要になる」「済生会の特色である医療と福祉の連携や、まちづくりに関与していくという姿勢を行政にダイレクトに伝えたい方がよい」

④他団体との連携

「医師会からの信頼を得られなければ支部設置は難しい」「地域医療連携推進法人は、当該地域の人口動態によっては経営予測が難しいため慎重に考える必要がある」

⑤実施する事業内容

「福祉施設単独での実施は経営面で困難であることから病院を中心とした福祉施設群という事業形態になるのではないか」「医療・福祉連携と共にソーシャルインクルージョンやまちづくりを含めた事業を検討してはどうか」

⑥資金調達

「本会のこれまでの生活困窮者支援や災害時の活動などをPRし民間企業等から寄付を募ってはどうか」「単に寄付を集めるのではなく、どのような事業に活用したかを寄付元に報告することが重

要」

今後の方向性

支部設立を進めるにあたり、委員からは「支部未設置の7県に優先順位をつけるという考え方はなく可能性の有無という考え方をしてもよいのではないか」「支部設立に向けた考え方やアプローチ方法をまとめた方がよいのではないか」「広報活動の実施からはじめ、

6議案を可決

理事会

理事会が10月8日、本部で開かれ、議案6件が全て原案通り可決された。報告事項は3件。

【議案】令和3年度事業計画及び同予算の変更(案)▽定款の一部変更に関する件▽基本財産の担保提供に関する件▽資金借入承認の件▽理事長が定める施設の長を選任する件▽評議員会の招集

【報告】①新型コロナウイルス感染症に関する本会の対応②本会施設の経営状況報告(4月～7月)③令和3年度上半期資金運用状況報告(総務課)



理事会の様子

令和3年度 高松宮記念基金助成事業補助金 [予算額:5,000万円]

補助対象事業名	申請金額		補助金決定額	
	件数	金額(単位:千円)	件数	金額(単位:千円)
1 社会的要援護者対策事業				
①診療費又は利用者負担額減免事業	31	23,014	31	22,681
②社会的要援護者対策先駆的的事业	3	2,500	3	2,025
計	34	25,514	34	24,706
2 医師国外研修事業			申請なし	
3 児童福祉施設等生活環境改善事業	4	1,040	4	947
4 要介護老人対策事業	1	500	1	500
5 国際協力事業				
①外国人受入れ研修費			申請なし	
②姉妹病院との交流費			申請なし	
計	0	0	0	0
6 マンパワー育成・確保事業				
①奨学資金及び研修資金	146	25,048	146	22,220
②施設の指導者等の育成費			申請なし	
③介護教室又はボランティア養成講座	1	100	1	100
計	147	25,148	147	22,320
合計	186	52,202	186	48,473

※本基金への内部加入率が90%未満の場合、同比率により減額される

高松宮記念基金の助成 186件4847万円

令和3年度の高松宮記念基金助成事業について、高松宮記念基金管理運営委員会の書面審議の結果、9月27日付で186件4847万3000円が承認された。予算額(5千万円)を超える申請があったが、規約に基づき各施設の内部加入率による査定を実施。予算の範囲内の決定となった。

補助の内訳は、「社会的要援護者対策事業」の診療費又は利用者負担額減免事業が31件23014万円、「社会的要援護者対策先駆的的事业」が3件2500万円、「児童福祉施設等生活環境改善事業」が4件1040万円、「要介護老人対策事業」が1件500万円、「国際協力事業」が0件0万円、「医師国外研修事業」が0件0万円、「マンパワー育成・確保事業」の奨学資金及び研修資金が146件25048万円、施設の指導者等の育成費が0件0万円、介護教室又はボランティア養成講座が1件100万円。

「国際協力事業」は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で昨年度と同様に申請はなかった。

マンパワー育成・確保事業について看護職は、認定看護師教育課程各研修が63件、看護師特定行為研修が16件、事務職では診療情報管理士26件が主なものである。

補助金の決定にあたり同基金への内部加入率が90%未満の場合は同比率により補助金が減額されてしまつたことから、同委員会は全職員に積極的な加入を呼びかけている。(高松宮記念基金)

新型コロナ入院655人、重症61人 看護師・医師の応援派遣も

新型コロナウイルス感染症への本会の対応が理事会に報告された。それによると、9月第4週の入院患者は3551人で、うち重症患者は38人。ピークだった9月第1週の655人・重症61人からは減っており、感染は下火になっている。確保病床は1028床だった。

これまでの看護師派遣▽吹田病院3▽千里病院6▽野江病院2▽泉尾病院3▽神奈川県病院2。また、4月～5月には大阪府済生会の3病院に

3議案を審議 施設運営委員会

施設運営委員会が9月21日、本部で開かれた。審議3件、協議1件、報告6件だった。

【審議】①資金借入②施設整備計画の変更(案)③令和4年度民間助成団体の補助事業計画(案)

【協議】①若草病院の在り方

【報告】①県央基幹病院(仮称)にかかる協定書の協議状況(新潟県済生会)②横浜市南部病院移転計画の現況報告③新型コロナウイルス感染症関係

寄贈

岩手県済生会 北上済生会病院同窓会「北上でしこの会」殿 125万円

(北上済生会病院へ)

栃木県済生会 植木政行殿 車いす35台(238万円相当)

(宇都宮病院、高齢者ケアセンターへ)

東京都済生会 角田欣一殿 1億円

由井克巳殿 100万円

(中央病院へ)

富山県済生会 中川清一殿 1000万円

(富山病院へ)

福井県済生会 山崎金廣(株)殿 300万円

(福井県済生会病院へ)

静岡県済生会 小楠壽典殿 50万円

(川奈臨海学園へ)

和歌山県済生会 廣岡聖司殿 100万円

(有田病院へ)

広島県済生会 坂町漁業協同組合殿 142万円、車いす他(98万円相当)

(はまな荘、たかね荘へ)

福岡県済生会 案浦美雪殿 200万円

(福岡総合病院へ)

熊本病院、下関総合病院、静岡済生会総合病院、福井県済生会病院から計6人が応援に赴いた。

第5波の6月～10月には厚労省からの要請に基づいて、病床がひっ迫した沖縄県の病院と首都圏の病院・酸素ステーションに13病院から計18人が派遣された。病院の内訳は熊本病院▽唐津病院▽岡山済生会総合病院▽向島病院▽静岡済生会総合病院▽下関総合病院▽境港総合病院▽福岡総合病院▽二市病院▽福井県済生会病院▽広島病院▽山口総合病院▽横浜市東部病院。

さらに、中央病院からは医師2人が3回にわたって東京都内の他団体の病院に派遣された。(新型コロナウイルス 感染症対策本部)



岡山・藤田裕一さんの作品

なでしこの写真 令和4年カレンダー W藤田さん受賞



滋賀・藤田拓郎さんの作品

令和4年済生会カレンダーのなでしこ写真の入選作が決まった。なでしこ写真は2年に1度募集している。今回は66人から応募があり、厳正な審査の結果、岡山済生会総合病院・事務員の藤田裕一さんと、滋賀県病院・リハビリテーシ

人事・給与システムを集約 DX対応方針を検討

情報化推進委員会が9月29日、本部で開かれ、人事・給与システムの集約化の審議及びデジタルトランスフォーメーション(DX)への対応方針が検討された。

情報管理課が本会施設を対象に毎年実施している「IT投資に係る現状調査」の中で、人事・給与システムの導入状況を確認したところ、全81病院の中に31社のシステムが導入されていることが判明した。

DX推進には、システムを刷新するだけではなく、「素早く変化し続ける能力を身につける」ことが重要であると訴えた。合計3回にわたって行なわれた講演と議論を踏まえ、次回以降、第一次方針案を今年度中に提示する方向で検討を進める。



(情報管理課)

北信越 オンラインで60人出席

初のオンライン開催となった北信越ブロック会議が10月7日、新潟病院で開かれ、本部・炭谷茂理事長をはじめ、支部・施設役員約60人が参加した。

中四国 105人が参加

中四国ブロック会議が9月10日、(島根)江津総合病院にてオンラインで開催され、本部・松原了理事をはじめ、中四国7県支部の役員105人が参加した。

新潟病院 渡辺佳奈子

ナ感染収束後の病院の外来のあり方などについて、病院事務局長会では、中四国ブロック災害訓練、メタル相談への対応、DXの取り組み等について議論が交わされた。

新潟県済生会 新潟病院名誉院長 授与 吉田俊明 6・1

新潟県済生会新潟病院名誉院長授与 吉田俊明 6・1

「あした」は、ナニイロ？
鹿島のしごと。
それは「あした」をつくること。
人と自然と向き合って、
よりよい毎日をつないでいくこと。
暮らしを描く、ものづくり。
無限の創造力で、彩り豊かな未来へ。

100年をつくる会社
鹿島

臨床研修指導医WS アプリでグループワーク

第45回全国済生会臨床研修指導医のためのワークショップが9月24・25日に本部主催で開催され、本会病院及び済生会の臨床研修プログラムに加わっている民間医療機関から合計24人の医師が参加した。

従来の宿泊研修施設で開催していたが、新型コロナウイルスの影響によりオンラインで実施。グループワークができるZoomの機能の他、これまで模造紙を使って行っていた作業を、Googleの「ジャムボード」と呼ばれる画面共有のアプリケーション等を活用して研修が行なわれた。

研修の主なテーマは研修医が行なう研修プログラムの立案。目標の設定、研修方法(方略)、コーチング、評価方法など、指導に必要な知識と技術についてグループワークなどを用い効果的に進められた。本部の医師臨床研修専門小委員会の委員7人が務めた。

挑戦の数だけ、保険がある。

人は挑戦することで前へ進み、世界は新しく変わってゆく。不安も、きつもあるだろう。でもそれは、分かち合うことで軽くなる。さあ、挑戦しよう。私たちはすべての挑戦を応援します。

To Be a Good Company
東京海上日動

TOKYO 2020 TOKIO MARINE NICHIDO TOKYO 2020
東京2020ゴールドパートナー (損害保険)